



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第四二二号〉

大暑 たいしよ 七月二十二日

齋宮と塩

暦の上ではもつとも暑い、大暑。この時期、伊勢神宮の御塩づくりが始まっています。五十鈴川河口の御塩浜では濃い海水(かん水)を採るため作業が、酷暑の中行われています。

塩は神社のお祓いや神饌しんぜんに欠かせないものであり、もちろん人が生きていく上でもなくてはならないものです。伊勢神宮の神に仕えた皇女こうじよ、齋王さいおうが住まう齋宮にも、塩が税として納められていました。9世紀、志摩国(現・志摩市)から齋宮に15石の塩が税として納められていたようです。ほかにも尾張国(現愛知県西半部)からも納められていました。

齋宮歴史博物館で開催中の「齋王の食事」展で、齋宮跡から出土した志摩式製塩土器を見ました。これまでに見たことのある底が尖った円錐形えんすいけいではなく、浅い鍋のような直径15センチほどの円筒形えんとうけいの素焼きの土器です。土器の底が薄く、ぐるりと囲む壁は1センチほどの厚みがあるのが特徴。齋宮では製塩は行われておらず、志摩国からこの土器で塩が納められていたと考えられています。おそらく、この土器は、かん水を煮詰めた後、どろどろとした状態の荒塩あらしおを再び火であぶり、水分を飛ばした焼き塩にする際、使われていたと思われるのです。伊勢神宮では荒塩にした後、三角錐の土器に詰めて竈かまどで焼き「堅塩かたお」にしますが、齋宮には素焼きの土器で焼き塩にし、納めたのではないのでしょうか。

また、齋王の食事を復元した模型では、調味料4種だけ載せる高坏たかづ(長い脚のついた容器)がありました。そこには銀の箸さしや匙さじとともに小さな銀器に、酢、酒、醬ひしお(現在の味噌・醤油の原型)、そして塩が置かれていました。ここからは、平安の当時、調味料を料理並みに大切に扱っていたことがわかります。暑い時期、水分とともに塩分も充分に取って、乗り切りたいものです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢の匠展

かつて、お伊勢参りの旅をしてきた人々は神宮参拝を終えると、伊勢に来た証として、この地ならではの土産物を求め、持ち帰りました。

その土産物の多くが、様々な職人たちの技によってつくられた手仕事の品です。

伊勢路には、そうした歴史の中で生まれ、今に伝わる伝統工芸の数々があります。

どれも暮らしを豊かに彩る素敵な一品で、長く大切に使用したいと思わせてくれる丁寧で正直なものばかり。

伊勢路に伝わる工芸品の数々をどうぞご覧ください。

日 時／7月27日(土)～8月18日(日) 10:00～17:00

場 所／おかげ座神話の館「シアタールーム」

入場料／無料

出展予定／伊勢和紙(大豊和紙工業)、松阪木綿(ゆうづる会)、伊勢木綿(白井織布)、市木木綿(向井ふとん店)、伊勢一刀彫(岸川行輝)、漆器(野嶋峰男)、伊勢根付(中川忠峰)、鈴鹿墨(鈴鹿製墨協同組合)、伊勢提灯(岩田提灯)、伊勢擬革紙(参宮ブランド擬革紙の会)、和釘(久住商店)、那智黒石(那智黒石協同組合)、伊勢春慶(伊勢春慶の会)、神殿(宮忠)、漆塗(玉木さおり)、伊勢型(伊勢つくしや)、伊勢紹刺し(西川佐恵子)、伊勢玩具(畑井工房)、籐細工(籐商玉屋)、竹笛(伊勢特産玩具製作所)

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 夏の星見と天の川銀河

夏の星空には、夏の大三角やさそり座など見どころがたくさんあります。さらにこの夏は宵の明星が見えはじめてきます。晴れたらレーザーで夏の星座をたどったり、望遠鏡で夏の星雲星団をご覧くださいと思います。夏の夜空に明るい星が多いのは、宇宙空間的に星が多い方向を見ているからです。これは天の川銀河(銀河系)の中での太陽系の位置関係や、地球の自転軸の傾きなどいくつかの組み合わせで起きている現象です。天の川と私たちの位置関係を見ていきましょう。

日 時／8月6日(火) 18:30～20:30

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／毛利 勝彦(名古屋科学館天文主幹・博士(学術))

参加費／一般 1,700円 会員 1,200円(五十鈴茶屋製の和菓子付き)

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

あさ 朝 がお 顔 夜明けから咲きはじめ、次々と花を開かせる夏の風物詩。白餡をういろうで包み、しっとりど露を置く、朝顔の姿に仕上げました。

あら 荒 いそ 磯 紺碧の海から、岩場に激しく打ち付ける波しぶき。その舞い散る様子を、特産の「あおさのり」を練りこんだ羊羹で表現しました。伊勢志摩の磯の風味をご賞味くださいませ。

ご さ しらはま 御座の白浜 御座の白浜は、伊勢志摩で随一の海水浴場。夏になると、海岸はたくさんの人々で賑わいます。白桃の羊羹に、ペパーミント風味の綿玉を重ね白浜を表現しました。